

屋久島の動物

屋久島は、面積わずか 500 平方キロメートルであるにもかかわらず、動物の多様性の宝庫となっています。多くの種がこの島のみを原産としており、この島の地質および生息環境の影響で、哺乳類は本土のものよりも小型になる傾向があります。

哺乳類

ヤクシマザル (*Macaca fuscata yakui*) やヤクシカ (*Cervus nippon yakushimae*) など十七種四亜種の哺乳類が森林に生息しています。クマやイノシシ、キツネがいる日本の他の地域とは異なり、サルやシカには大型哺乳類の捕食者がいません。このことは、屋久島のサルやシカの小型化の一因になっているのかもしれませんが。この島のアジア大陸や日本本土からの分離は食料不足を引き起こした可能性があり、その結果、限られた資源で個体数を増やすために、動物は小型化しました。しかしながら、屋久島の比較的栄養価の高い食べ物もまた、この鹿の代謝率の高さと成長の制限に貢献したのかもしれませんが。

ヤクシマザルはダークグレーで、浅黒い手足を持っています。本土のニホンザルに比べて毛が太いため、標高の高い場所でも冬場は暖かさを保つことができます。このサルは島中の木々に生息していますが、主に沿岸から海拔約 800 メートルの照葉樹林までの地域に生息しています。村落や沿岸部ではアコウイチジクやガジュマルの木の実を、山林ではツブラジイやレッドオークの実を食べています。

ヤクシカは、海拔約 1200 メートルの常緑広葉樹林やスギ林に生息しています。色はこげ茶色で、木の皮や新芽、木の实などを食べます。

マカクやシカは西部林道沿いで見つけることができます。実のところ、この地域の動物たちは人間に慣れてしまっています。動物の自然な採餌サイクルを乱すことになるので、訪れる人は決して餌を与えてはいけません。

鳥類

屋久島で確認された 168 種の鳥類の中には、この島のみを原産とする亜種が 2 種類おり、それらはカケス(*Garrulus glandarius orill*)とヤマガラ (*Parus varius yakushimensis*) です。深い森林では、しかしながら、野鳥観察が難しく、ほとんどの種は山林ではなく、標高の低い場所で見つかっています。春と秋には多くの渡り鳥が屋久島に立ち寄りますが、その中にはサシバ(*Butastur indicus*)やヤツガシラ(*Upupa epops*)などの珍しい種も含まれています。スズメも本土から飛来しますが、屋久島には巣を作りません。

バードウォッチングに最適な場所の一つは、白谷雲水峡のさつき吊橋の向こう側にある原生林を通る遊歩道沿いです。横河溪谷もまた、大きな花崗岩の岩々やエメラルドグリーンのプールののどかな風景の中でのバードウォッチングの機会を提供してくれます。

昆虫

屋久島では 3,000 を超える昆虫種が見つっていますが、そのほとんどは九州本土にも生息しています。屋久島は少数の昆虫種の北限であり、山の低いところや沿岸部では多くの南方種が生息しています。島には 147 種のカミキリムシをはじめとする珍しい昆虫が生息しています。チョウやトンボも南西風や台風に追い立てられた場合には、近くではトカラ列島や奄美群島から、遠くでは遥か台湾やフィリピン、また中国本土から一時的に屋久島に迷い込みます。珍しい屋久島原産のキシマミドリシジミ(*Thermozephyrus ataxus*)という蝶は、高度 600 から 1,300 メートルのヤクスギランド、小杉谷、また花之江河などで、七月と八月にのみ見られます。白谷雲水峡は昆虫観察全般に適したスポットですが、大川の滝はトンボ観察で人気があります。